

としょしつ 図書室だより



あずま北小図書室

令和7年6月号



雨の季節になりました。この時期「晴耕雨読」という言葉がうかびます。みんなにたとえると、晴れの日には外で元気に遊んで、雨の日には静かに本を読むということになるかな。

雨の日には嫌だな！ではなくて、本がいっぱい読める日だ！になってほしいです。

あじさい読書月間がはじまります。
6月16日（月）～7月8日（火）

☆読書スタンプラリー
☆クロケロかえる🐸コンテスト
☆読書ではなをさかせましょう。

本を読んだらはなびらが1枚もらえます。
自分の学年のあじさいをきれいにさかせてください。

たくさんの参加、まっています。



小学生が選ぶ子どもの本総選挙に

参加します！

全員に投票用紙をくばります。

投票したい人は、図書室にある本だけではなく、今までに読んだ本の中で一番好きな本をえらんで、投票してください。

投票用紙の書き方が、少しむずかしいですが、書き方の説明をよく読んで書いてください。



6月の風物詩（季節感をあらわしているもの）



和菓子についてのお話です。6月16日は和菓子の日です。

平安時代中期に疫病が蔓延（大流行）したことから、その時の天皇、仁明天皇（にんみょうてんのう）が、年号を「承和（しょうわ）」から「嘉祥（かしょう）」にかえました。

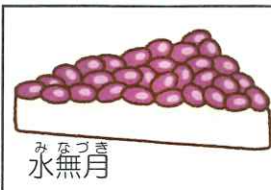
この時代は、悪いことがあると縁起かつぎで年号を変えていたようです。

年号を変えた、6月16日、16個の和菓子を神前に供えて、疫病よけをお願いしました。「嘉祥」とは、「めでたいしるし」という意味があるようで、「和菓子の日」は健康を願う儀式が由来だったようです。

和菓子を食べる厄除けを願う習慣が続き、江戸時代までは盛んにこの行事がおこなわれてきたようです。

6月の和菓子の中で水無月というお菓子は、節分や土用の丑の日のように決まった日に食べる習慣があります。6月の最後の日に食べるそうです。

昔の宮中（天皇の住まい）では、6月1日を氷の節句として氷を食べましたが、貴重な氷を食べられない庶民は、氷の形に似せてつくられた水無月を食べて暑い夏をのりきったといわれています。上にのっている小豆には邪気をはらったり、悪いものをよせつけない役目があるとされています。暑い夏を乗りきるために、和菓子を楽しむのもいいですね。



水無月